

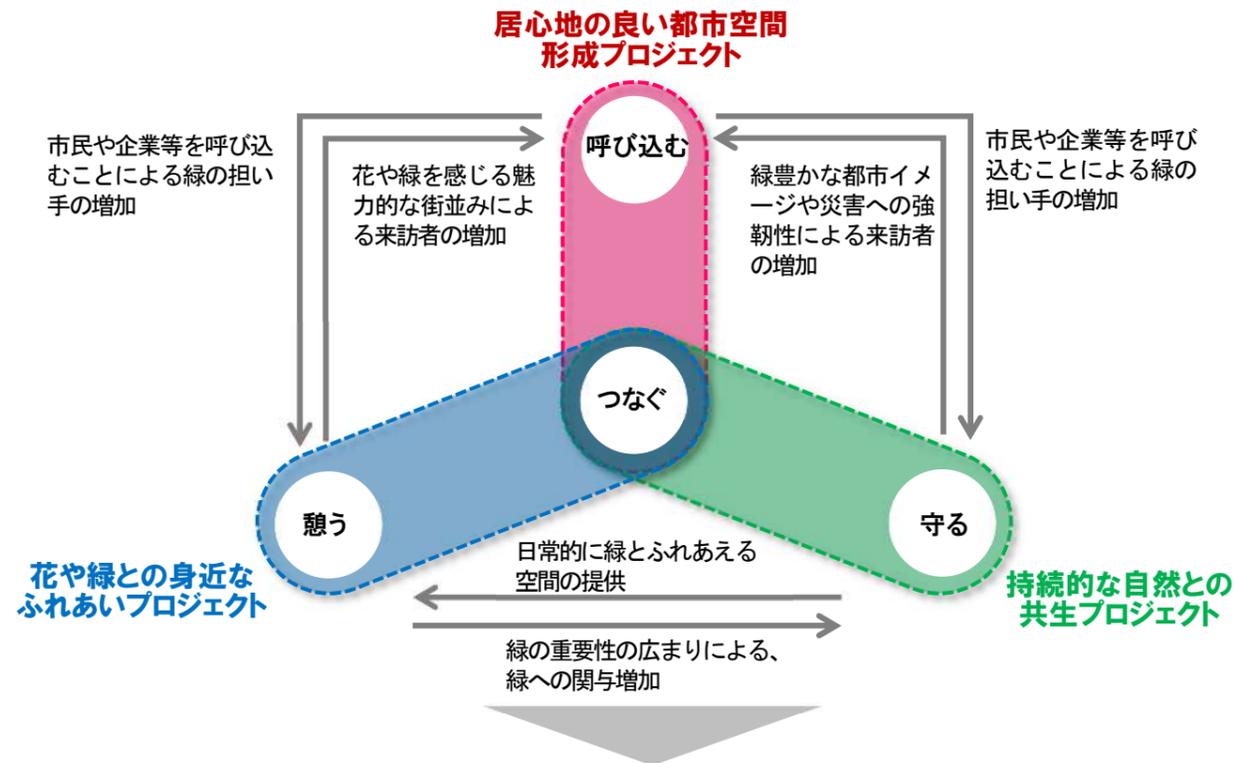
1. リーディングプロジェクトとは

- リーディングプロジェクトとは、緑の4つの力である「呼び込む」「憩う」「守る」「つなぐ」を効果的に発揮し、緑の将来像を実現させる上で先導的な役割を担うプロジェクトです。
- リーディングプロジェクトを通じて、市民や企業、行政が連携して、多様なニーズに即した緑の保全・活用・創出とマネジメントの取組、新たな仕組みの構築を実現し、市内に広く水平展開していくことを目指すものです。

2. リーディングプロジェクトの展開の考え方

3つのプロジェクトの先導的実施による相乗効果の創出

- 3つのリーディングプロジェクトは、それぞれ緑の「呼び込む」「憩う」「守る」の力を発揮する柱となるプロジェクトとなっており、緑の「つなぐ」力を発揮することによって多様な主体が関わり合いながら展開し、お互いに相乗効果を発揮しながら、緑のまちづくりをけん引していきます。
- 「呼び込む」の視点では、「居心地の良い都市空間形成プロジェクト」を展開し、都市の魅力と価値を高め、国内外から多くの来訪者や居住者、企業等を招くことで、緑のまちづくりの担い手を増加させます。
- 「憩う」の視点では、「花や緑との身近なふれあいプロジェクト」を展開し、花や緑のある潤いのある都市空間を形成することにより、緑の重要性が広まり市民の緑への関わりを強めるとともに、魅力的な街並みが来訪者を増加させます。
- 「守る」の視点では、「持続的な自然との共生プロジェクト」を展開し、本市のかけがえのない自然環境を将来に渡って保全することで、日常的に緑とふれあえる空間を提供するとともに、緑豊かな都市イメージや災害への強靭性が人々を引き付けます。



「みどりの豊かさを感じる、快適なまち さいたま」の実現

3. リーディングプロジェクト

LP① 居心地の良い都市空間形成プロジェクト

呼び込む×つなぐ

- 公民連携による緑を生かした地域の魅力と価値の向上
- 地域産業等を生かした緑に親しむ機会の創出
- 都市のみどりを評価する仕組みづくり



LP② 花や緑との身近なふれあいプロジェクト

憩う×つなぐ

- パークマネジメントによる地域の魅力を高める公園づくり
- 公共空間等における花と緑のスポットづくり
- 公民による花・緑づくりの連携・ネットワーク化



LP③ 持続的な自然との共生プロジェクト

守る×つなぐ

- 多様な主体による持続的な緑地マネジメントの推進
- 温室効果ガス吸収源としての見沼田圃等の保全と活用
- 市民が自然とふれあう機会づくり



(1) 目指すべき姿

緑の多様な機能を生かして、都市の魅力と価値を高める

高度な都市機能が集積することで生じる、多くの人々や企業等の集結を生かし、公民が連携・協働してグリーンインフラの取組を推進し、緑の多様な機能を発揮させることで、居心地の良い都市環境を形成します。

特に駅周辺など都心のまちづくりの中でも重要な空間では、緑化を通じて回遊性・滞留性を高め、賑わいを創出します。また、見沼田圃など自然環境との近接性を生かした緑化や、デジタルを用いて緑の価値を可視化することで緑に対する関心を高めます。

こうした取組を通じて、ゼロカーボンシティの実現やスマートシティの形成に貢献していきます。



(2) 施策の方向性

公民連携による緑を生かした地域の魅力と価値の向上

○グリーンインフラの取組を通じて地域の持続的な魅力と価値の向上を図るため、地域の各主体が集まり連携した取組推進の母体となるプラットフォームの構築を目指します。

○駅周辺や商店街等においては、可動式植栽を活用した緑化滞在空間の創出や、公開空地等まちなかのオープンスペースにおける緑化等を通じて、回遊性・滞留性につながる魅力的なストリートを形成し、都市の象徴となる緑ある景観により地域イメージを高めていきます。

<施策例>

- ・公民連携のプラットフォーム構築によるグリーンインフラの取組推進
- ・可動式植栽を活用した緑化滞在空間の創出

地域産業等を生かした緑に親しむ機会の創出

○建物緑化やオープンスペースにおける植栽等にあたり、植木苗木などの地域産業を活用していきます。

○見沼田圃等で活動している地元農家、植木生産者等と連携して、さいたまの歴史的な文脈を生かしたナラティブなアプローチをとりながら、地域産業の振興へつながる緑化や公共空間の活用を促進します。

<施策例>

- ・植木文化を生かした緑豊かな街並みの形成
- ・見沼田圃等で採れた農作物を活用した公共空間の賑わい創出

緑を評価する仕組みづくり

○緑が持つ多様な機能の評価・分析を行い、地域の緑の状況をデータベース化します。

○緑の価値を可視化することで、市民や企業等の緑のまちづくりへの参画を促進します。

<施策例>

- ・樹木が持つ環境価値を数値化する仕組みの構築
- ・樹木情報のオープンデータ化

(3) リーディングプロジェクトの展開

実施計画

施策	前期（～2025年度）	後期（～2030年度）	将来
公民連携による緑を生かした地域の魅力と価値の向上	モデル地区における緑化の技術・仕組の試行・社会実験	複数の都心・副都心等での緑化、組織構築に向けた検討	
地域産業等を生かした緑に親しむ機会の創出	モデル地区における地元農家、植木生産者等と連携した緑化の推進、連携先の拡大	公民による花・緑づくりの連携・ネットワーク化（LP②）と連動した実施場所・主体の拡大	
緑を評価する仕組みづくり	都市の緑の基礎調査、評価の試行・技術開発	モデル地区における評価、オープンデータ化	オープンデータを生かした市民参加型の緑施策の企画立案

リーディングプロジェクト2：花や緑との身近なふれあいプロジェクト

(1) 目指すべき姿

花や緑との身近なふれあいを通じた、緑あるライフスタイルの実現

花と緑に包まれて日々を過ごすことのできるまちを目指して、市民が主体となった花づくり、緑づくりを推進します。まちなかの貴重な緑のオープンスペースとして市民に親しまれる公園では、地域のニーズに合致した柔軟なマネジメントに取り組みます。市民が暮らしの中で日常的に花や緑に関わることで、緑ある景観がもたらす安らぎや潤い、花づくりを通じた地域交流の効果を実感できるまちづくりを進めます。

市内に特色ある花と緑のスポットを創出するとともに、相互につないでネットワークを形成し回遊性を生み出すことで、花と緑が感じられ、住民や来街者が歩きたくなる、訪れたくなるまちの形成を目指します。



(2) 施策の方向性

パークマネジメントによる地域の魅力を高める公園づくり

○市全体の公園経営の方向性を定めるパークマネジメントプランを作成するとともに、必要に応じて主要な公園のマネジメント方針を定めます。

<施策例>

- ・パークマネジメントプランの作成
- ・公園利用者や地域住民等による公園の柔軟なルールづくり

公共空間等における花と緑のスポットづくり

○駅前や公園、環境空間等、人々が日常的に利用する公共空間等において、地域の顔となるような特色ある花壇や緑の空間づくりに取り組みます。

○花いっぱい運動やみどり愛護会等の持続的な活動を支援するため、学校や企業等の参画を促します。

<施策例>

- ・地域の顔となるような花壇や緑の空間の創出
- ・花壇活動、緑地保全への企業や学校等の参加促進

公民による花・緑づくりの連携・ネットワーク化

○本市を代表する花と緑のスポットと併せた観光ルートの設定や民間企業との連携による観光客の呼び込みなど、地域のにぎわい創出や活性化に向けた取組を検討し、本市らしいガーデンツーリズムの推進につなげます。

<施策例>

- ・ワークショップを通じた花・緑づくりの機運醸成
- ・花と緑のスポットを結ぶ回遊ルートの設定やマップ化による観光客の誘致

(3) リーディングプロジェクトの展開

実施計画

施策	前期（～2025年度）	後期（～2030年度）	将来（2031年度以降）
パークマネジメントによる地域の魅力を高める公園づくり	市全体のパークマネジメント方針の策定	主要な公園のマネジメントプランの立案	パークマネジメント方針・プランに基づく公園の管理運営
公共空間等における花と緑のスポットづくり	花壇づくり・緑化の候補地の調査	花壇づくり・緑化の基本設計	特色ある花壇や緑の空間の整備、持続的な維持管理体制の構築
	学校や企業等への呼びかけ		
公民による花・緑づくりの連携・ネットワーク化	市民団体等と連携した花・緑づくりの機運醸成	ガーデンツーリズムの方向性検討	公民連携によるガーデンツーリズムの推進

リーディングプロジェクト3：持続的な自然との共生プロジェクト

(1) 目指すべき姿

緑と市民の関わりを強め、自然と共生する暮らしを将来に継承する

市内に残る樹林地は、都市の環境向上に貢献するとともに、都市住民や安らぎの場となるポテンシャルを持っています。見沼田圃など斜面林や河川、農地と一体となった田園風景は、都市に居ながら自然を感じる重要な資源であり、生き物を育むとともに、独特の文化・伝統を継承してきました。これまで緑を守ってきた土地所有者や市民団体等の活動に加え、民間企業等の多様な主体と連携して、グリーンインフラとしての緑地の新たな価値を創出し、本市のかけがえのない環境資産を次世代に引き継ぎます。



(2) 施策の方向性

多様な主体による持続的な緑地マネジメントの推進

○市民団体や民間企業等と連携した新たな緑地の活用方法を試行し、持続的な緑地保全の仕組みを検討します。

<施策例>

- ・モデル地区における企業と連携した緑地活用
- ・市民団体や企業等が交流する機会の創出

温室効果ガス吸収源としての見沼田圃等の保全と活用

○緑地の保全に民間活力を活用するため、見沼田圃等の大規模な緑地・農地においては、公有地や遊休農地等を活用して企業や大学等と連携しながら、温室効果ガス吸収源としての可能性を調査し、カーボンニュートラルや生物多様性、防災等に貢献する見沼田圃の活用方策を検討します。

<施策例>

- ・企業や大学等との連携による温室効果ガス吸収の実証実験
- ・カーボンニュートラルに貢献する新たな制度の検討

市民が自然とふれあう機会づくり

○本市の自然を生かした緑や生き物とふれあうことのできる機会を創出します。

○見沼田圃を生かしたさいたまセントラルパークにおいては、見沼田圃の自然・歴史・文化を継承し、広域防災拠点を補完する防災機能を有するとともに、Park-PFI等公民連携により魅力と賑わいがあり、かつ公園DX等新たな公園づくりの先導的モデルとなる公園づくりを進めます。

<施策例>

- ・見沼田圃等の自然を生かした緑や生き物と触れ合えるイベントの開催
- ・さいたまセントラルパークの整備

(3) リーディングプロジェクトの展開

実施計画

施策	前期（～2025年度）	後期（～2030年度）	将来（2031年度以降）
多様な主体による持続的な緑地マネジメントの推進	モデル地区の選定、企業との連携方策の検討	モデル地区における企業連携試行、試行結果を受けた仕組の改善継続	企業等が参加する緑地管理の仕組の本格稼働
温室効果ガス吸収源としての見沼田圃等の保全と活用	大学・企業等と連携した実証実験 見沼田圃の価値の見える化、調査結果の情報発信	カーボンニュートラルに貢献する制度の検討(大学・企業等と連携)	制度の運用開始
市民が緑とふれあう機会づくり	さいたまセントラルパークの整備	自然の魅力を活かしながら、大規模自然災害に備える拠点としての公園運用	